

八職が揃っているのは愛知県のみ

尾張独自の発展をした名古屋仏壇

日本の伝統的な家屋には必ずといっていいほど仏間があり、仏壇が据えられていました。どれも同じ様に見える仏壇ですが、それぞれ異なる装飾や形式をしています。宗派の違いということもありますが、それ以上に産地による違いもあります。愛知県内では名古屋と三河が仏壇の産地として知られています。名古屋では中区の大須に多くの仏壇製造業者が集まっています。これは名古屋の町がつくられた時、この近辺にたくさんお寺が集められたことによるものです。江戸時代末期には下級武士の内職として仏壇づくりが盛んにおこなわれるようになりました。

名古屋仏壇の特徴を一口でいえば、仏壇の台を高くして全体を四つに分け、水害時には分解して持ち運びやすい構造にしていることです。濃尾平野は全国で最大の海拔ゼロメートル地帯です。木曾三川による洪水に度々見舞われていました。そうしたことへ対処するために考え出されたようです。

伝統の技を集大成



一つの仏壇を完成させるまでにたくさんの職人が関わります。木地(天井、箱)、くうでん宮殿、彫刻、塗り、ろいろ呂色、



表金物、内金物、蒔絵、箔押しなどを総称して仏壇八職と呼んでいます。仏壇は八職が揃わなければ完成させることができません。

ところが職人の減少によって、現在も八職が揃っているのは全国の仏壇産地の中でも名古屋と岡崎だけだといわれています。

名古屋仏壇は昭和51年に通産省による「伝統的工芸品」に指定されました。八職が全て揃っているということは、正真正銘の伝統的工芸品に他なりません。どれか一つでも欠けてしまうと、本物の伝統工芸とは言えなくなってしまいます。

仏壇八職の技は、例えば祭で使われる山車の装飾品など、様々な日本の伝統工芸にも見られるものです。見方を変えれば仏壇以外にも生かすことのできる技です。しかも伝統の技をもつ職人さんが減少しています。八職のもつそれぞれの技を用いることで日本の文化を守ることができるはずです。

DATA ■ 名古屋仏壇商工協同組合

所在地: 名古屋市中区橋1-6-5 大野屋ビル

- ・ 明治8年: 名古屋仏壇商組合設立
- ・ 昭和39年: 名古屋仏壇商協同組合創立
- ・ 昭和45年: 名古屋仏壇商工協同組合発足
- ・ 昭和51年: 通産省の伝統工芸品に指定
- ・ 同年: 名古屋仏壇商工協同組合の「工」部を名古屋仏壇八職組合と改名